

No 42
31 Jan. 2014

日本・パプアニューギニア協会会報

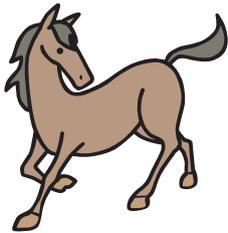
ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 発行日 平成26年1月31日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-6-10 大橋ビル1階 コスモメディア(株)内 TEL03-5604-8611 FAX03-5604-8613



協会メンバーのみなさま、 平成26年 新年明けましておめでとうございます。

日本・パプアニューギニア協会 会長 山下 勝男

年末から年始にかけて青空の好天に恵まれています。午年平成26年の日本の発展と国民の幸せを暗示しているかのようです。

昨年中は、異常気象による洪水、竜巻等自然災害が各地で発生し、尊い人命と財産が失われました。

他方前向きな出来事として、国際的課題ではTPP交渉参加、2020年オリンピックパラリンピック東京開催決定、沖縄の基地問題解決への動き、国内的話題では、数年ぶりの安定感のある政権の誕生、消費税増税問題の決着がありました。

それぞれにまだ解決すべき問題が残っていますが、いずれも前向きの動きとして歓迎したいものです。

PNGにとりましても、今年はLNGの生産・輸出が本格的に開始され、同国の発展と延いてはPNGと日本との友好関係の一層の緊密化が図られる1年になることと確信しております。

「オニール首相訪日」

昨年中は、当協会にとって大小さまざまな出来事がありました。中でも最大のハイライトは、3月のオニール首相の公式来日でした。

同首相の来日は一昨年に予定されていましたが、PNG側の事情により直前キャンセルされ、協会としても残念に思っていたものですが、昨年実現し、友好議員連盟と共催で歓迎レセプションを開催できたことは大変光栄なことでした。

「投資協定の発効」

永年両国経済界より早期の締結が切望されていた二国間投資協定が、昨年11月国会で承認、同12月三ツ矢外務副大臣がPNGを訪問された機会に協定発効

のための交換文書の署名が行われました。これにより協定はこの1月17日発効の運びになりました。両国の民間交流の促進にお手伝いしたいとの協会の目的にも鑑み、今回の協定の締結は大変喜ばしいことであり、協定締結に向けて尽力された外務省はじめ両国政府関係者の御尽力に対し、この場を借りて心より感謝申し上げます。

「政府首脳相互訪問の実現」

両国首脳が相互に訪問し合うことが、両国友好関係促進にとって計り知れない意義を有することは多言を要しません。PNGからの首相の訪日は独立以来すでに十数回に及んでいますが、残念ながら日本の首相のPNG訪問は昔に1回行われて以来途絶えているのが実情です。

お互いに相手国の重要性が高まりつつある現在、本年は是非とも首相の相互訪問を実現したいものです。また首相の相互訪問に加えて、本年は両国友好議員連盟の相互訪問が実現できれば、両国の幅広い交流を促進するうえで誠に喜ばしいことと思います。

「ポートモレスビー海外支部の設立」

「勉強会の開催」「会員数の増加」

すでに会報、メルマガで御報告済みですが、いずれも協会の活動強化にとって重要な事柄です。皆様のご協力が是非とも必要です。改めましてこの機会に会員皆様の積極的参加と御意見の提案をお待ちしております。

PNGのさらなる発展と日本・PNG友好関係の一層の緊密化を祈念して、新年のご挨拶といたします。

日本・パプアニューギニア投資協定の発足

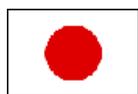
先に「メールマガジン」にてご案内申し上げました通り、去る2013年12月18日にポートモレスビーに於きまして、「投資の促進及び保護に関する日本国政府とパプアニューギニア独立国政府との間の協定」(略称:日・パプアニューギニア投資協定)の効力発生の為の外交上の公文の交換が行われました。これにより、本年1月17日に同協定は効力を生じることになります。これにより益々両国間の投資、貿易、人的交流が進むものと期待されております。

本投資協定は2011年4月26日に東京で署名が行われてから、およそ3年の月日をかけ、両国の国会承認を得て本年1月17日に効力が発効するものです。

両国の関係強化に益々拍車がかかることでしょう。条文の内容は外務省の次のページからダウンロードが可能です。

皆様、是非ともご一読くださいませ。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000018362.pdf>



日・パプアニューギニア投資協定



背景

- 鉱物・エネルギー資源(金・銅・天然ガス)が豊富
 - 天然ガスの開発が本格化
-
- ・ LNG(2014年生産開始予定)の約半分が日本向け輸出(年間総輸入量の約5%)
 - ・ 日本企業も大型LNGプロジェクトに参画

意義

- ◆ 投資環境の透明性、法的安定性、予見可能性が向上
- 我が国からの投資の更なる保護・促進

【経済界からの要望も強い】

ポイント

- ◆ 二国間の投資を促進し、投資家の権利を保護する法的な枠組みを定める。
- (例)
- ① 投資財産の設立後の無差別待遇
 - ② 投資財産に対する公正な待遇・十分な保護
 - ③ 投資阻害要因となり得る要求(現地調達, 技術移転等)の原則禁止
 - ④ 正当な補償等を伴わない収用の禁止
 - ⑤ 投資受入国・相手国投資家間の紛争解決手続



- ◎ 在留邦人: 261人(2011年10月)
 - ◎ 駐在日系企業: 15社(2013年9月)
 - ◎ 進出分野: 天然ガス開発, 林業, セメント等
- (参考)
- ◎ 英, 独, 豪, 中, マレーシアと投資協定を締結済み

PNG側は国内手続を既に完了

外務省HPより抜粋

投資協定の締結経緯、説明などは次の外務省HPで詳しくご覧いただけます。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/page22_000014.html

第三回「TOKTOK」会

パプア・ニューギニアにおける戦地慰霊—その歴史と現状に参学

当協会 会員 増元 章子

平成25年11月20日、國學院大學に於いて「パプア・ニューギニアにおける戦地慰霊—その歴史と現状」と題して、第3回「TOKTOK」会が中山郁准教授の報告講義が開催されました。

中山先生が映像と事前に用意してくださった資料を用い、パプアニューギニア(当時はニューギニア島、東部ニューギニア)の闘いの特色や、激戦地が広域であり、過酷な自然環境と補給の不調等で戦没者128,000名がニューギニアのあちこちで最後を遂げられた等、ご講義されました。

ブナ、ギルワからアイタパまで長い地域に戦没地は点在しており、資料に沿って遺骨収集、慰霊巡拝、慰霊碑建立のお話しされました。

また栃木県護国神社によります東部ニューギニア巡拝団の実際の行程や内容に基づいての、慰霊事業の具体的なご説明がございました。

また慰霊巡拝の今後の「担い手」の変容については、公的機関の遺族会等、民間団体としての東部ニューギニア戦友・遺族会、長野県、高知県、千葉県、栃木県の事例を通してお話しされました。加えて、戦友と遺族、非戦争体験者らが現地の人々との交流を支えてきた戦地慰霊も大がかりな曲がり角であるとのことご説明もございました。

庶民による民間交流としての慰霊巡拝機能の引き継ぎを実行し、戦争と死者(日本、PNG、豪)をいかに忘れないようにするか、それを支える人々は、どうすべきなのか……。熱意を持った「凛」とした口調で講義は終了しました。中山先生とは東部ニューギニア戦友・遺族会主催の慰霊巡拝団で一度成田—ポートモレスビーとご一緒いたしました。私はウエワク・マダンからセピック上流に参り、先生は別方面参られ、その時は残念ながらお話する機会はありませんでしたが、國學院大學の偉大な場所で、研究学者として今後の慰霊巡拝事業などに大いに貢献している事を知り、感謝の気持ちでいっぱいです。この様な講義を拝聴する機会に恵まれて感動しました。有難うございました。

TOKTOK会は2回目の参加でした。一度も参加したことが無い方、是非ともご参加してみてください。心が豊かになる出会いがあります。今回は、教室が数十名の人々で満たされました。その中に大学生の方、若い人々の参加に加え、協会理事のご紹介の壮年の方々が多数出席されていました。多忙な時期にご参加頂いた方々、またそのような方々をTOKTOK会へご紹介を頂いた理事に、ありがとうございますと感謝申し上げます。

また聴講生の若い人々にも、too。

又、「TOKTOK」会で再会致しましょう。



日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第34回

「みなさん、こんにちは」

株式会社
商船三井です。

Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

〒105-8688 東京都港区
虎ノ門2丁目1番1号
<http://www.mol.co.jp/>

(株)商船三井は、1884年に大阪商船が設立されて以降、三井船舶等との合併を経て、2014年4月1日に創業130周年を迎えます。当社は総合海運会社として、鉄鋼原料、石炭、木材チップなどを運ぶばら積み船、原油や石油精製品の輸送を担うタンカー、自動車船、多種多様な製品を運ぶコンテナ船、そして、液化天然ガス(liquefied natural gas)を運ぶLNG船などを通じて、多彩な分野で世界の海上輸送を支え、2013年9月末時点で、世界最大の926隻の運航規模を有しています。

当社は1983年からLNGの海上輸送に参画し、2013年12月現在で、世界の全

LNG船の約2割にあたる84隻(建造中の16隻を含む)に関与しており、世界最大のLNG船オペレーターとして事業を展開しています。2012年の世界のLNG需要は約2.4億トンでしたが、2020年には最大で約4億トンに達すると予想されており、それまでに更に100隻以上のLNG船が必要になると言われています。当社のLNG船隊規模も2020年までに110隻程度まで拡大し、リーディングカンパニーとしての地位を一層強固なものとしていきたいと考えています。

現在パプアニューギニアではLNGの出荷開始に向けた最終段階に入っていますが、当社は2010年3月に、ExxonMobil社が主導するPNG LNGプロジェクト向

けにLNG船4隻の長期貸船契約を締結しました。同契約への投入船のうち2隻は、2014年後半よりポートモレスビー近郊から日本、台湾等のアジア諸国に向けたLNG輸送に従事することになります。残る2隻は、現在中国の造船所で建造されており、2015年から2016年にかけて順次竣工の予定です。当社にとって中国でのLNG船建造は今回が最初となりますが、当社がこれまでに積んできた経験を活かし、Exxon Mobil社の協力のもと、建造に取り組んでいます。

当社は、これまで培ってきた経験とノウハウを活かした世界最高水準のLNG輸送サービスの提供を通じて、パプアニューギニアの発展に寄与していく所存です。



事務局からのお知らせ・編集後記

あけましておめでとうございます。本年もどうぞNPO法人日本パプアニューギニア協会を宜しくお願いいたします。御蔭様で本協会も2002年の発足より12年目を迎えることとなりました。本年の初回イベントは2月12日に西江雅之先生による「トクピジン」についての第4回TOKTOK会の開催に始まり、第5回は5月頃に開催予定です。またPIC(太平洋諸島センター)、外務省

や関係企業様との情報交換をよりおこない、HOTな情報を皆様にお届けするよう努めて参りますのでご期待ください。

事務局からのお願い

ごらくちょうはメールのご登録を頂いた方には、メール添付のPDFで、インターネットの環境が整わない方には、印刷したバージョンをご郵送させていただいております。郵送でお受けの方でネット環境が整いましたらご一報を頂きますようお願いいたします。尚、ごらくちょう、メールマガジンのバック

ナンバーは全て協会HPでご覧いただけます。<http://www.jpng.or.jp>

お悔やみ

元日本パプアニューギニア友好議員連盟会長の山下徳夫氏が本年1月1日にご永眠なされました。享年94歳。山下先生は官房長官、運輸大臣などをご歴任され、日本パプアニューギニア友好議員連盟会長時に、ニューギニア航空の成田国際空港への乗り入れには多大なご協力を賜りました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。会員数 2014年1月10日現在 *法人会員/35 *個人会員/125

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法/郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
年会費/個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 学生 1,000円 PNG人 1000円
会費受付/郵便振替口座をご利用ください。

口座記号/番号 00140-2-277582
加入者名/トクピ ニホン パプアニューギニアキョウカイ
問い合わせ先/日本・パプアニューギニア協会 事務局
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-6-10 大橋ビル1階 コスモメディア(株)内
電話 03-5604-8611 FAX 03-5604-8613 E-mail: info@jpng.or.jp
URL <http://www.jpng.or.jp>